

高退協文芸

俳句

花蘇鉄の四季

小澤 幸泉

桜植えた団地の夜の皆過ぎし

六月の雨はしつとりおとなしい

石楠花の丘一面に内原野

初夏の佐渡の山々とおい人

紫陽花の夢を育てる老夫婦

詩

何七か七

西村雅人

時間のない園に住む君には
分らないかも知れないけれど
あれから はや二年半たったよ

「悼む」とは
「痛む」ということだと
どこかで聞いたことがあるけど
もう 僕の胸は痛まなくなつた

君を忘れたわけじゃないけれど
生きている者は
とにかく 生きてゆくしかないからね

今朝

冬景色を眺めながら歩いていたら
鯉の形をした 大きな雪を見つけたよ

鯉は口を開け
天に向かつて 曇り空を泳いでいた
背びれのおたりから 朝日が頬をだし
僕のまわりを照らしてくれた

見ている内に だんだん雪は形をかえて
ゴジラのうしろ姿みたいになつた
怪獣が ゆっくりと遠ざかり

空の海原に 消えてゆくのを見送つた
何七か七
ゆっくりと形をかえ

ただよいながら かわり続ける
教えてくれないか
時間のない園に七
こんな空があるかどうか

短歌

『呪いの言葉の解きかた』

田上悦子

心がへこむ呪いの言葉へ切り返す上西允子教授の本 読みたし

宙占める仏の巨大な微笑みにカンボジアの過去 謎が重なる

う右の樹で鳴けば身内とご近所に気兼ねしており庭の蝉声

暮らし

山本晶子

夜店にてやつと見つけし 幅広のひのきの祖板キヤベツを刻む

一日終え扇の床拭く幸せよ大根のくず米つぶ煮豆七

孫の世話ようよう終わり六年ぶりに朝刊夕刊すみずみまで読む

川柳

帆傘集

小澤 幸泉

そう言えばどこかで鉄のかけ違ひ

街灯りしつかり老いのガラス窓

キツチンの十字架見詰め愛難週

夜越しに最期の時がよく見える

キリストのいのちに生きるとおり道

幾重にも欠けた茶わんの夫婦愛

伸び切つたゴムと私を繋ぎ合わす

高退協読書会

大川法由記

8月22日(木) 13時。高退協読書会(実には173回目!)の取材に出かけました。ムトー荘2階。最初が高橋泰宏さんがお目見え、雑談をしてると小島真子さん、樋口重雄さん、浜田隆史さん、最後に叶岡淑子さんと勢揃い。13時半が近づいたころ樋口さんの司会で読書会の始まりとなりました。最初に課題本の感想をそれぞれが順番に述べて、そのあと意見交換です。みなさんちつとも堅苦しくなく、「やわらかいまじめな」流れです。課題本は「日本が壊れていく1幼稚な政治、ウソまみれの国」筑摩書房 斎藤 勇著。
「本の何ページにこんなことが書いてあった」と紹介しながら自分の考えも述べていきます。とにかく安倍政権への不安、不満がぞろぞろ出てきます。「著者の言うには戦時体制の構築がもう出来上がっているのではないかと。安倍閣連法、共謀罪法などが数の力で決められて、マイナンバーの強制もそれに関連している。」「自民党を良くすることは安倍をおろすことである。でも安倍だけが悪いのか。国民も悪いのではないか。この国民としての論理といえる。」

「アジアの中で日本人が一番偉いと思ってる。白人に対するコンプレックスを持ちながらアジア人には驕りを持っている。」「安倍は金持ち優遇、貧乏人をほったらかし。」「オリンピック誘致のアンダーコントロールはひどかった。」「IRR法についても、私はラスベガスのカジノを見たことがあるけれどカジノは裸になってしまいますよ。」「メディアが完全に取込まれている。頑張っているとされる一般紙も社説などでガクッとくるように弱っている。」「文民統制というけれど、政府がやりたい放題にやっている。ここまではたまた日本人一人ひとりの生き方が問われている。」「等々、感想も意見も境目がなく話は尽きません。和やかでもまじめな会なので、「本の中に『新自由主義』という言葉がよく出てくるけど、私は正確にはよくわからん。どういう意味やろうか。」「という発言で新自由主義の意味をみんなで話しあつたり。
「課題本は全部読んでおくんですか。」「と聞くと「何日も前に読んでいくと忘れてしまうので、会の2、3日前に読んでいます。」「
「2、3日で読み切れますか。」「
「それは大丈夫です。」「(本がとても好きなので集中して読むのは問題ないようです)
「文学小説などはあまり取り上げないのですか」と聞くと「楳村の人々をやったこともあります。松



向かって左から 小島真子さん、叶岡淑子さん、
浜田隆史さん、高橋泰宏さん、樋口重雄さん

本清張もずいぶんやりました」「でも今の世相でしょう。今回のような本をどうしても扱ってしまいますよ。」「こんな時だから頭も眼もしっかりとっている間は頑張らんといかん。」「
本の世界に浸りつつ国や世界を憂えているとても意気軒高な方たちでした。

次回第174回読書会は10月24日(木) 13時ムトー荘2階。テキストは『平成の終焉』原武史著、岩波書店です。参加費500円。参加希望者は直接会場へお越しください。初めての方大歓迎です。